



図書館だより



2026年
2月27日発行

秋草学園高等学校 図書館

3年生のご卒業をお祝いします。図書館が大好きだった方もあまり縁がなかったなという方も図書館は一生身の回りにあるものですから、秋草の図書館がよかったなと思ってもらえるとうれしいです。

さて、卒業、進学、進級に関わらず春は出会いの季節です。不安を払拭するために『友だちがしんどいなくなる本』(石田光規/KADOKAWA/361-1)はいかがでしょうか。司書も「自分抜きで昨日お出かけしてみたい」という胃が痛くなる経験をしています。まあ、サプライズ誕生日プレゼントの買付だったのですが。しかし、理由があったとしても、疑心暗鬼から心を壊してしまう人もいるのではと、自分からはこのようなことは仕掛けないようにしています。自分がしんどいだけでなく、友だちをしんどくさせないという立場からも、本書で友だち関係のモヤモヤから心がす〜っとする方法を見つけてください。

埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本

2025年10月までの1年間に発行された図書のうち、「高校生に読んでもらいたいな」と高校司書たちが選んだもののランキングです。

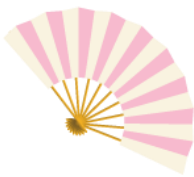
第1位 488-ス『僕には鳥の言葉がわかる』
鈴木俊貴 // 著 小学館

以前クラッシーで「おすすめ配信」したので覚えている方もいるのではないのでしょうか。著者は学者さんで、NHKやTBSのテレビの番組で、本当に鳥のお話解説しているお兄さんです。世の中にはこういう楽しい学者もいるんだと認識しました。

第2位 019-カ『本が読めない33歳が国語の教科書を読む』かまど, みくのしん // 著
大和書房

第3位 913.6-ア『僕たちの青春はちょっとだけ特別』雨井湖音 // 著 東京創元社

第4位 913.6-ミ『それいけ!平安部』
宮島未奈 // 著 小学館



「成瀬シリーズ」の著者が平安時代を掘り下げる部活動を描きました。2年前のNHK大河ドラマは紫式部を描いていましたね。平安時代を知ることは日本の歴史の多くを知ることにもなります。

図書館では、紫式部・清少納言などの読みやすい本を用意しています。

以下、第10位までの図書が図書館特設コーナーに用意してありますので、ぜひご一読ください。

小説のマルチメディア化

913.6-ナ『木挽町のあだ討ち』
永井紗耶子 // 著 新潮社。

柄本佑さん主演で2月27日に公開の同名映画の原作です。時代小説でありミステリー、あだ討ちから始まる場面はまるで舞台のよう。軽いトリックと思いきや、最後の最後に「本を手にとった時点で作家さんにだまされていたのか」と気付く、恐れ入り谷の鬼子母神。

そして、本作は、映画だけでなく歌舞伎としても演じられています。「木挽町」とは銀座の歌舞伎座があるあたりです。あだ討ちシーンは美しい雪の中ことで、歌舞伎の話である『国宝』(吉田修一/朝日新聞出版/B913.6-3-1~2)のラストシーンとも重なります。



新着コーナーの気になる本

375-ナ 「なるには Books」 ペリかん社

新学期になると進路の話が出てきますよね。その時に迷わないように、将来の自分を想像してみたいかがでしょうか。今回、「なるにはシリーズ」を最新版にしました。

職業は自由に選ぶ権利がありますが、実際には免許・資格が必要なものもあり、専門の学校に行かないと国家試験さえ受けられないものがあります。例えば、助産師・保健師は、看護師になって専門の学校に行かないとなれません。「なるには Books」は自分が興味・進路について考えるために一番初めに読むべき本です。

□ 司書の今月はこの本読みました

去年の暮れ、気になる本と出会いました。その名も『お梅は呪いたい』(藤崎翔/祥伝社/B913.6-7-1)、不穏な書名に反し、表紙はコミカル、どんなストーリーなのか読んでみました。500年の眠りから覚めた呪いの人形お梅。戦国の世で人々に恐れられてきたお梅が現世でもその力を発揮して人々を呪って、呪って、呪いまくる!!はさすが、500年のブランクとすっかり様変わりした人間社会に悪戦苦闘。すまほ?ゆふちゆふばあ?なまはいしん?乳う母あ?わからないことだらけの中、「えねゑちけゑ いみてれ」で情報収集し、人を呪うための努力を重ねるお梅のキャラクターにハマってしまい、今月はその第二弾『お梅は次こそ呪いたい』(藤崎翔/祥伝社/B913.6-7-2)を読みました。呪おうとする度、人を救ってしまい、地団太を踏んでばかりのお梅だけど、決して諦めず失敗を糧に頑張る姿勢は見習いたいところ。ミスリードを誘ってくるストーリー展開もおもしろいです。 【今井】

